

平成27年度 第3回青森市民図書館協議会 会議概要

- 1 日 時 平成28年3月29日(火) 午後15時～午後17時
- 2 場 所 青森市民図書館8階会議室2
- 3 出席委員 大坂美保、熊谷せい子、西村勝文、工藤真奈美、川越浩司、倉内千恵子、秋元美香子、中園裕、秋谷進、清藤正道
- 4 事務局出席職員 館長 渡邊薫、室長 工藤大輔、主幹 須藤裕二、主幹 村上泰子、主幹 時田裕之、主任司書 菅谷悦一、主事 村上純子、主事 田崎鈴
- 5 次第
第3回青森市民図書館協議会
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 報告事項
・青森市教育振興基本計画策定について
 - (4) 協議事項
・平成28年度の青森市民図書館運営について
 - (5) その他
 - (6) 閉会
- 6 会議の概要(発言の要旨)

○報告事項 ・青森市教育振興基本計画策定について 資料「3 報告事項 青森市教育振興基本計画策定について」により、事務局より説明

質疑応答

主な質疑応答は以下のとおり

(委員)

青森市教育振興基本計画内の基本施策14目標とする指標の①学校図書館の蔵書率を上げるために、図書館としてはどんなことが考えられるか。

(事務局)

市民図書館では困難だが、県立図書館においては、10年経過した図書を施設に差し上げることをしており、こういう事業を推奨したいと思っている。

意見

- ・多くの学校では、授業や朝読書、市の読書感想文や読書新聞等への応募に力を入れている。学校の図書予算は限られており、学校図書室の利用促進だけでなく、市民図書館から定期的に送られるYA新着図書リストを生徒に情報提供しながら、身の回りにある図書の活用などにより図書利用に繋げている。
- ・学校図書館の蔵書率は、学級数による計算式のため、同じ冊数でも達成率が変わる。子どもの減少傾向との兼ね合いもあるが、学校図書予算の確保と100%購入が定着しており、徐々にいい本が学校に入ってきている。

○協議事項 ・平成28年度の青森市民図書館運営について
資料「4 協議事項 平成28年度の青森市民図書館運営について」により事務局より説明

質疑応答

主な質疑応答は以下のとおり

(委員)

読み聞かせに関する本の情報が、図書館ホームページにもあればいいと思う。

(事務局)

児童ライブラリーで「図書館だより」を作成してHPに掲載している。

(委員)

ホームページのスマホ版を作成する計画はあるか。

(事務局)

計画はないが、研究してみたいと思う。

意見

(委員)

- ・小学生は、児童だけでは学区内から出られないため、学校図書室でしか借りられない。移動図書館や学校支援があると新しい本や情報を得ることができる。まだ未実施の学校でも実施してもらえれば、子どもたちがもっと本を好きになると思う。
- ・館内展示事業、歴史資料室の運営について、市内でも、西部地区とか東部地区などの地区別に実施することで、より濃い利用者（ファン）が図書館に来ると思う。また、八甲田山、青森港、堤川、酸ヶ湯温泉、下湯温泉などの青森市を特徴付ける風土・歴史・事象を取り上げるのがよい。
- ・20代～40代の大人は基本的に何でもスマホで、図書館の情報もそれに合わせる必要があるが、その一方で、図書館ではそれに抵抗しながらも本や新聞、辞書などの紙媒体、アナログの良さを事業に盛り込み、伝えていくことも大切であると思う。
- ・幼少期に紙芝居や絵本などの読み聞かせは、紙媒体と触れる良い機会だと思う。紙媒体で伝える大切さを、今後も図書館で実施してほしい。
- ・自分の生き立ちに関する歴史が一番興味ある部分と思う。それに関するものを取り上げることで、図書館に来るのが楽しいと思い、利用者増にも繋がる。

(事務局)

先日、函館市立図書館長と対談した際、歴史講座について何か一緒にできないかという話になったが、戊辰戦争・函館戦争時の青森函館の様子や役割など歴史講座などの企画ができないかという案が出ている。

会議終了